

Acknowledgements to reviewers for Vol. 37

The Editorial Board is grateful to the following persons for their cooperation in reviewing the manuscripts submitted to the Japanese Journal of Phycology Volume 37.

M. CHIHARA, S. ENOMOTO, Y. FUJITA, Y. HARA, T. HORI, T. ICHIMURA, I. INOUE, K. IWASA, T. KATO, H. KAWAI, H. KITO, H. KOBAYASI, K. KOHATA, M. MASUDA, H. MIKAMI, M. MIZUNO, H. NAKAHARA, K. NISIZAWA, H. NODA, T. OHMORI, T. OKUDA, I. SHIHIRA-ISHIKAWA, F. B. SOTTO, E. TAKAHASHI, M. TAKAHASHI, J. TANAKA, M. TATEWAKI, H. TOKUDA, K. UEDA, M. M. WATANABE, H. YABU, I. YAMADA, T. YAMAGISHI, Y. YAMAGUCHI, Y. YOKOHAMA, Y. YOSHIDA, M. YOSHIKAWA

Erratum (Addendum)

The following note has been erroneously missed from page 235 of this volume. Please insert the following below the Japanese abstract on page 235 in No. 3 of this volume.

訂正 (追加)

第37巻第3号の235頁で下記のnoteが誤って欠落してしまいました。お詫びして訂正いたします。同頁の和文要旨の下に挿入してください。

Note added in proof:

CORMACI and FURNARI (Jpn. J. Phycol. 37: 27, 1989)
recently transferred *Antithamnion simulans* to *Scagelia*.
Above, we synonymize it with *S. pylaisaei*.

日本藻類学会事務局住所変更のお知らせ

1990年1月1日から学会事務局の住所は下記に変わります。編集関係以外の連絡はすべて下記宛にお願いします。

〒602 京都市上京区下立売小川東入
中西印刷株式会社内 (TEL. 075-441-3155)
日 本 藻 類 学 会

Change of Address of the Office

From January 1, 1990, all correspondence to the Society excepting the editorial business should be addressed to:

The Japanese Society of Phycology
c/o Nakanishi Printing Co.,
Shimotachiuri-Ogawahigashi,
Kamikyo-ku, Kyoto, 602 Japan

日本学術会議だより №.15

「ヒト・ゲノム・プロジェクトの 推進について(勧告)」を採択

平成元年11月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る10月18日から20日まで第108回総会(第14期4回目の総会)を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、その総会で採択された勧告を中心に、同総会の議事内容等について、お知らせいたします。

日本学術会議第108回総会報告

第108回総会の主な議事概要は次のとおりであった。

第1日(10月18日)の午前。まず、会長から、前回総会以後の経過報告が行われ、続いて、各部・委員会の報告が行われた。さらに、今回総会に提案されている3案件についてそれぞれ提案説明がなされた後、質疑応答が行われた。

第1日の午後。各部会が開催され、午前中に提案説明された総会提案案件等の審議が行われた。

第2日(10月19日)の午前。前日提案された案件の審議・採決が順次行われた。

まず、第7部の専門別の会員定数の変更並びに同部世話担当の研究連絡委員会の再編成(統合3件、分割2件、新設1件、名称変更6件)を内容とする、会則の一部改正が採択された。

続いて、第4部及び第7部の「会員の推薦に係る研究連絡委員会」の指定の変更を内容とする、関係規則の一部改正が採択された。

これらの改正は、具体的には第15期からの組織・活動に係るものである。

さらに、生命科学と生命工学特別委員会の提案による「ヒト・ゲノム・プロジェクトの推進について(勧告)」が採択された。なお、この件の審議の際には、研究成果公開の原則とプライバシー保護等の問題、「プロジェクト・チェック機構(仮称)」の果たす具体的役割等について、討議が行われた。この勧告は、同日午後直ちに内閣総理大臣に提出され、関係省庁に送付された(この勧告の詳細は、別掲参照)。

また、本総会においては、会長から、日本学術会議の移転問題に関し、前回総会以降の主な動きとして、①去る8月「国の行政機関等移転推進連絡会議」において、本会議の移転先が横浜市「みなとみらい21地区」となったこと、②これに対し三役及び運営審議会のとった対応、などについて報告があった。種々質疑応答が行われた後、これまでの三役及び運営審議会の対応については、基本的な了承がなされた。また、今後の移転に関する諸問題については、当面、三役及び運営審議会にその処理を一任することで了承された。

第2日の午後。「地球環境問題」について、活発な自由討議が行われた(この自由討議の詳細は、別掲参照)。

第3日(10月20日)午前には各常置委員会が、午後には各特別委員会が、それぞれ開催されさ。

ヒト・ゲノム・プロジェクト の推進について(勧告)

(勧告本文)

ヒト・ゲノムの全DNA塩基配列決定を主たる目標とするヒト・ゲノム・プロジェクトは、関連諸分野の学術研究に極めて大きなインパクトを与えると期待され、我が国として早急かつ重点的に推進すべきである。

そのためには、ヒト・ゲノム・プロジェクト推進組織(仮称)を設け、基本計画の立案、実施計画の策定、省庁間などの協議、国際協力、データ・ベースとレポジトリの整備などを総合的に行うべきである。

また、この推進組織との緊密な連携のもとに、研究計画の実施に伴う社会的、法律的及び倫理的諸問題を客観的かつ公正に判断するとともに、これらの諸問題に適正に対処することを目的とするプロジェクト・チェック機構(仮称)を設立し全体として調和のとれた施策を進める必要がある。

よって、日本学術会議は我が国における本プロジェクトの推進を図りそのために必要な措置を講ずるよう勧告する。

(説明)[要旨]

- ヒト・ゲノム・プロジェクトは、人類の遺伝情報の解読と遺伝子機能の解明を目指した研究計画であり、早急かつ重点的に推進すべきである。このプロジェクトによって生命科学等の領域の技術開発が進めば、人類福祉に貢献することは疑いない。
- ヒト・ゲノム・プロジェクトを推進するために、ヒト・ゲノム・プロジェクト推進組織(仮称)を設置する。その主たる目的は勧告本文のとおりである。この組織は、研究の進展に弾力的に対処できるものとし、具体的問題の処理のため委員会等を設ける。運営に当たっては個々の研究者とその集団の自主性を最大限に尊重すべきである。
- このプロジェクトの実施に伴って生じる社会的、法律的及び倫理的諸問題に適切に対処するために、プロジェクト・チェック機構(仮称)を設立する。その主たる目的は、検体提供者の保護のための基準を作成すること、情報の管理、研究計画と成果の一般への公開の基準を作成すること、知的所有権問題についての方針を作成すること、研究成果の応用段階における倫理的問題についての指針を作成することであり、目的達成のための必要な権限が与えられるべきである。

総会中の自由討議—地球環境問題—

本会議総会中の重要な行事である、自由討議が、総会2日目の10月19日の午後1時から3時間にわたって開催された。この総会中の自由討議は、会員のための一種の勉強会で、その時々学術上の重要課題を取り上げて行われている。今回は「地球環境問題」という課題のもとに行われた。

自由討議は、渡辺格副会長の司会のもとに、5人の会員による意見発表があり、さらにこれらの意見発表をもとに会員間で活発な討議が行われた。

今回の自由討議の概要は次のとおりである。

[5人の会員による意見発表]

まず、近藤次郎第5部会員から、9月の「地球環境保全に関する東京会議」の出席報告として、①環境保全と発展途上国の資源開発、産業振興等との関わりについての討議状況、②ソ連における環境問題、③大気中の炭酸ガスの増加に伴う温暖化による地球環境への影響に関する注目すべき研究結果の発表等について紹介があった。

次に、吉野正敏第4部会員から、「環境」というものとの考え方、考え方について、人文・社会科学の立場からの例をも引いて意見が述べられ、また、IGBPについて、同計画は、様々な環境問題を基礎科学分野としてとらえるものであり、その実施の結果、直ちに、環境問題が全て明らかになるものではない等の発言があった。

次いで、大谷茂盛第5部会員から、同会員が委員長を務めている化学工学研究連絡委員会が新たに提唱した「地球生態工学」に関し、提唱に至った経緯及びその学問内容等について説明がなされるとき、この件に関連する、関係学会及び関係省庁における動きについて説明が行われた。

続いて、大島康行第4部会員から、生物界と地球環境との関わりについて、①生物を媒介にした人間への影響の問題をどう捉えるかが、地球環境問題を考えていく上で非常に重要な観点である。②環境汚染が生物資源に与える影響は非常に大きく、様々な問題を生じ、結局、これが人間にはねかえってくる等の発言があった。

最後に稲田献一第3部会員から、経済活動特に生産活動あるいは技術革新と環境問題との関わりについて意見が述べられ、環境問題を考える際には、人間社会が様々な技術をどのように使用するかという、人間社会の仕組みの問題が最も重要な問題である等の発言があった。

[討議]

5人の会員による意見発表の後行われた討議では、第1部から第7部まですべての部にわたる20人を超える会員より、それぞれ専門の立場から活発な発言がなされた。

この討議の中で述べられた意見は多岐多様にわたったが、その主なものを項目にして列挙すると、「コジェネレーションによるエネルギーの有効利用」、「IGBPへの人文・社会科学の関わり方」、「海洋と環境問題」、「畜産廃棄物の処理問題」、「微生物利用による都市河川、下水の浄化システム」、「環境問題と人間性との関わり」、「環境問題に対する学術会議の体制及び取り組み方」、「地球環境に関する国際協力事業についての学術会議が果たすべき役割」等であった。

なお、この総会の自由討議の内容については、後日、日学双書として出版される予定である。

「委員会報告」3件を発表

本会議では、その意思の表出の形態の一つとして、各部・各委員会がその審議結果をとりまとめたものを、総会又は運営審議会の承認を得て、外部に発表する「報告」（通称「対外報告」と言っている。）というものがある。ノ

この日本学術会議だよりでも、今までに、この対外報告を紹介してきたが、今回、最近発表されたもののうち、まだ紹介していない3件を、次に紹介する。

電子工学の体系化に向けて—電子・通信工学研究連絡委員会報告(要旨)

電子工学はそれを基礎にした通信工学や情報工学、制御工学などの急激な進展に伴って、これらの技術分野・工学分野の相互関係が極めて複雑になって来ているので、電子工学の学問・技術体系の根幹、電子工学の基盤となっている方法論、通信工学、情報工学等の応用工学とのかかわりを明らかにするために方法論の体系化を試みた。

即ち電子工学を共通基礎理論、基礎電子工学、電子デバイス・回路工学、電子装置・システム工学、応用分野と階層化し、さらに「集積回路」と「光エレクトロニクス」が電子工学の中心分野を形成しつつある重要な技術領域であるとの認識に立ち電子工学の技術要素と通信工学、情報工学との相互関連を検討した。

また電子工学体系の範囲を大学学部での教育対象分野および大学院での教育を含む研究対象分野に分類した。

「国際防災の十年」—災害科学研究者からの提言—災害工学研究連絡委員会報告(要旨)

1987年、第42回国連総会で決議された「国際防災の十年」(IDNDR)のスタートがいよいよ迫ってきた。行政レベルでは、内閣総理大臣を本部長とする推進本部が設けられているが、この実施には科学者、研究者の各専門領域からの積極的な関与が不可欠である。国連決議に先立ち、災害工学研究連絡委員会ではこの活動の支持を表明し、またその後も米国アカデミーや国連諸機関の活動に協力してきたが、スタートに当たり、わが国の関係科学者、研究者のなすべき、あるいは行う得る事柄を提言という形で表明したものである。その内容は、①「国際防災の十年」で何をするのか、②国際共同研究の展開、③基礎研究の推進、④「国際防災の十年」の実現に向けて、より成っている。今後はその実現に向けて積極的な運動を進めていきたい。

電圧、抵抗および温度の維持方式の1990年1月1日からの変更について—標準研究連絡委員会報告(要旨)

第77回国際度量衡委員会(1988年10月開催)は、電圧、抵抗の各標準の維持方式の変更と、温度目盛の変更の3つの勧告を採択し、1990年初頭からの実施を求めた。この変更を国内に事前に周知するため、関心の高い9学会に、勧告の要旨を掲載した。以下に勧告の骨子を記す。

電圧標準はジョセフソン効果で実現し、電圧周波数係数をK_vと記号し、その値を483 597.9 GHz/Vと定義した。抵抗標準は量子ホール効果で実現し、量子化ホール抵抗をR_Kと記号し、その値を25 812.807 Ωと定義した。温度スケールは、IPTS-68に変わり、ITS-90(1990年国際温度目盛)を定義した。変更は多岐に亘るので、詳細は関連学会誌を参照されたい。

以上の変更により、電磁気計測の精度と国際的整合性が著しく改善され、温度計測の熱力学温度との一致と低温域への拡張が達成される。

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(403)6291

The Japanese Journal of PHYCOLOGY

Volume 37, 1989

Contents

No. 1 (10 March)

- P. M. Sivalingam:** Biochemical relationships of *Valonia fastigiata* and *Valoniopsis pachynema* from the tropics [P. M. Sivalingam: 熱帯産 *Valonia fastigiata* と *Valoniopsis pachynema* の生化学的關係]..... 1- 3
- P. M. Sivalingam:** Cytoplasmic electrolyte fluctuations in *Valonia fastigiata* and *Valoniopsis pachynema* with regard to the external environmental medium [P. M. Sivalingam: 外液に関連する *Valonia fastigiata* と *Valoniopsis pachynema* の細胞質内電解質変動]..... 4- 6
- Kunshan Gao and Isamu Umezaki:** Comparative studies of photosynthesis in different parts of *Sargassum thunbergii* [高 坤 山・梅崎 勇: ウミトラノオの藻体部位別の光合成活性に関する比較研究]..... 7-16
- Tetsuro Ajisaka:** Plurilocular sporangia and the development of plurisporangia in *Ishige okamurai* YENDO (Phaeophyceae) from the Kada coast, Wakayama Prefecture in Japan [諺坂哲朗: 和歌山県加太産のイシゲ (褐藻類) の複子嚢と遊走細胞の発生]..... 17-22
- Mario Cormaci and Giovanni Furnari:** World distribution of the genus *Antithamnion* NAEGELI (Rhodophyta, Ceramiaceae) [Mario Cormaci-Giovanni Furnari: 紅藻イギス科のフタツガサネ属の世界における分布]..... 23-30
- John P. Kociolek and Ronald K. Mahoney:** Observations on valve morphology and the systematic position of *Rouxia californica* M. PERAGALLO (Bacillariophyceae) [John P. Kociolek-Ronald K. Mahoney: 珪藻 *Rouxia californica* M. PERAGALLO の殻形態の観察および系統的的位置]..... 31-38
- Michael J. Wynne:** Observations on *Pseudolaingia larsenii* (SKOTTSB.) LEVR. (Delesseriaceae, Rhodophyta) [Michael J. Wynne: 紅藻コノハノリ科の *Pseudolaingia larsenii* (SKOTTSB.) LEVR. の観察]..... 39-45
- 本多正樹・奥田武男:** 秋に成熟するアカモクの卵放出, 胚発生および光合成速度の季節変化 [Masaki Honda and Takeo Okuda: Egg liberation, germling development and seasonal changes in photosynthetic rates of autumnal *Sargassum horneri*]..... 46-52
- W. A. Nelson and R. E. De Wreede:** Reproductive phenology of *Analphus japonicus* (HARV.) WYNNE (Phaeophyta) in the eastern North Pacific [W. A. Nelson-R. E. De Wreede: 東部北太平洋における褐藻マツモの生殖の季節性]..... 53-56
- Wang Xiao Yang:** Observations on pyrenoid ultrastructure of *Cladophora conchopheria* (Chlorophyceae) [王 晓 陽: 緑藻カイゴロモ (*Cladophora conchopheria*) のピレノイドについての電顕観察]..... 57-79
- 訃 報 [Obituary]..... 60-62
- 新刊紹介 [Book Review]..... 22, 52
- ニュース [News]..... 63
- 学会録事 [Announcement]..... 64
- 日本藻類学会第13回大会プログラム・講演要旨 [Program and abstracts of the XIIIth Annual Meeting of the Japanese Society of Phycology]..... 65-86
- 日本学術会議だより [Japan Science Council News]..... 87-88

No. 2 (20 June)

- Kunshan Gao and Isamu Umezaki:** Studies on diurnal photosynthetic performance of *Sargassum thunbergii* I. Changes in photosynthesis under natural sunlight [高 坤 山・梅崎 勇: ウミトラノオの光合成に関する研究 I. 太陽光下での光合成の日変化]..... 89-98
- Kunshan Gao and Isamu Umezaki:** Studies on diurnal photosynthetic performance of *Sargassum thunbergii* II. Explanation of diurnal photosynthesis patterns from examinations in the laboratory [高 坤 山・梅崎 勇: ウミトラノオの光合成に関する研

究 II. 実験室内での結果に基づく考察]	99-104
Taizo Motomura: Ultrastructural study of sperm in <i>Laminaria angustata</i> (Laminariales, Phaeophyta), especially on the flagellar apparatus [木村泰三: ミツイシコンブ (褐藻, コンブ目) の精子の微細構造, 特に鞭毛基部構造について].....	105-116
Hiroyuki Ito: Seasonal fluctuation of <i>Chrysochromulina parva</i> (Prymnesiophyceae) in four ponds and lakes in the Kinki district, Japan [伊藤裕之: 近畿地方の4湖沼における <i>Chrysochromulina parva</i> LACKEY (ブリムネシウム藻綱) の季節的消長].....	117-122
Hiroshi Yabu: Notes on <i>Urospora penicilliformis</i> ARESCHOUG from Hokkaido [藪熙: 北海道函館産のシリオミドロについて].....	123-128
Naotsune Saga, Yoshihiko Sakanishi and Takashi Ogishima: Method for quick evaluation of cell viability in marine macroalgae [嵯峨直恒・坂西芳彦・荻島隆: 大型海産藻類の細胞生存率の簡易評価法].....	129-136
Masahiko Idei and Hiromu Kobayasi: Examination of the type material of <i>Diploneis boldtiana</i> CL. (Bacillariophyceae) [出井雅彦・小林 弘: <i>Diploneis boldtiana</i> CL. のタイプ材料の調査].....	137-143
松本正喜・吉田忠生: 日本新産紅藻ヒメベニヤバネグサ (新称) <i>Membranoptera spinulosa</i> (RUPRECHT) KUNTZE (紅藻 コノハノリ科) について [Masaki Matsumoto and Tadao Yoshida: On <i>Membranoptera spinulosa</i> (RUPRECHT) KUNTZE (Delesseriaceae, Rhodophyta) new to Japan]	145-149
Masakazu Tatewaki, Wang Xiao-Yang and Isamu Wakana: A simple method of red seaweed axenic culture by spore-washing [館脇正和・王 曉 陽・若菜 勇: 孢子洗浄を利用した簡易な紅藻の無菌培養法].....	150-152
Mitsuo Kajimura: Lectotypification of <i>Predaea tokidae</i> , <i>Predaea bisporifera</i> (Nemastomataceae, Rhodophyta) and <i>Antithamnion okiense</i> (Ceramiaceae, Rhodophyta) [梶村光男: <i>Predaea tokidae</i> , <i>Predaea bisporifera</i> (ヒカゲノイト科, 紅藻植物門) 及び <i>Antithamnion okiense</i> (イギス科, 紅藻植物門) の選定基準標本の選定]	153-155
新刊紹介 [Book Review]	144
学会録事 [Announcement]	156-162
学会会則 [Regulations of the Society]	163
投稿案内 [Information for authors]	164-165

No. 3 (20 September)

Suzanne Fredericq, Max H. Hommersand and James N. Norris: Morphological observations on the adelphoparasite <i>Gracilariophila oryzoides</i> (Gracilariales, Rhodophyta) [Suzanne Fredericq・Max H. Hommersand・James N. Norris: アデルフォ寄生藻 <i>Gracilariophila oryzoides</i> (紅藻, オゴノリ科) の形態観察]	167-179
Michio Masuda and Olga N. Selivanova: Notes on <i>Odonthalia kamschatkana</i> (RUPRECHT) J. AGARDH (Ceramiaceae, Rhodophyta) [増田道夫・Olga N. Selivanova: 紅藻カムチャツカノコギリヒバ (イギス目フジマツモ科) について].....	180-186
Young-Meng Chiang and Jiunn-Liang Lin: Nitrate uptake by nitrogen-starved plants of the red alga <i>Gracilaria tenuistipitata</i> var. <i>liui</i> [江 永 棉・林 俊 亮: 窒素欠乏条件下に置かれた紅藻 <i>Gracilaria tenuistipitata</i> var. <i>liui</i> の硝酸塩吸収]	187-193
Miyuki Maegawa and Washiro Kida: Regeneration process of <i>Ecklonia</i> marine forest in the coastal area of Shima Peninsula, central Japan [前川行幸・喜田和四郎: 三重県志摩半島沿岸域におけるカジメ海中林の更新過程].....	194-200
Donald F. Kapraun and J. Craig Bailey: Karyology and nuclear DNA content of <i>Gelidium pusillum</i> (Gelidiales, Rhodophyta) from North Carolina, USA [Donald F. Kapraun・J. Craig Bailey: 米国ノースカロライナ沿岸より得た紅藻テングサ日的一种 <i>Gelidium pusillum</i> の核学並びに核 DNA 含有量]	201-207
斉藤 謙: 日本産オモテソゾはミツデソゾと同一物 [Yuzuru Saito: Conspecificity of two Japanese <i>Laurencia</i> species: <i>L. okamurae</i> and <i>L. japonica</i>]	208-212
Noboru Murase, Miyuki Maegawa and Washiro Kida: Photosynthetic characteristics of several species of Rhodophyceae from different depths in the coastal area of Shima Peninsula, central Japan [村瀬 昇・前川行幸・喜田和四郎: 三重県志摩半島沿岸域における生育水深の異なる紅藻数種の光合成特性].....	213-220
Sandra C. Lindstrom and Paul W. Gabrielson: Taxonomic and distributional notes on northeast Pacific <i>Antithamnion</i> species (Ceramiaceae, Rhodophyta) [Sandra C. Lindstrom・Paul W. Gabrielson: 北東太平洋岸産フタツガサネ族 (紅藻イギス目)]	

の分類学と分布上の知見].....	221-235
Hiroshi Yabu and Hirotohi Yamamoto: Chromosome number of <i>Gracilaria chorda</i> and <i>G. vermiculophylla</i> [藪 潔・山本弘敏: ツルシラモとオゴモドキの染色体数].....	236-238
Hiroshi Kawai: First report of <i>Phaeosaccion collinsii</i> FARLOW (Chrysiophyceae, Sarcinochrysidales) from Japan [川井浩史: 日本新産黄金色藻 <i>Phaeosaccion collinsii</i> FARLOW (フクロコガネモ: 新称).....	239-243
新刊紹介 [Book Review]	244
学会録事 [Announcement]	245-248
日本学術会議だより [Japan Science Council News]	249-252

No. 4 (10 December)

Yumiko Amemiya and Oki Nakayama: Separation and sugar composition of gelatinous sheath carbohydrates produced by <i>Microcystis</i> [雨宮由美子・中山大樹: <i>Microcystis</i> 属藍藻の生産する粘質鞘多糖の分離と糖組成]	253-262
Masahiro Notoya and Yusho Aruga: The life history of <i>Dudresnaya japonica</i> OKAMURA (Cryptonemiales, Rhodophyta) in culture [能登谷正浩・有賀祐勝: 紅藻ヒビロウドの生活史].....	263-267
Tadao Yoshida: <i>Solieria pacifica</i> (YAMADA) YOSHIDA, comb. nov. (Solieriaceae, Rhodophyta) from Japan [吉田忠生: ミリン (紅藻, スギノリ目) の学名について].....	268-270
Tadao Yoshida: Notes on <i>Spirocladia lochooensis</i> (YENDO) YOSHIDA, comb. nov. (Rhodomelaceae, Rhodophyta) [吉田忠生: 新組合せ <i>Spirocladia lochooensis</i> (ヒゲヨレミグサ, 新称) について	271-273
Hiroo Satoh, Yukuya Yamaguchi, Kentaro Watanabe and Yusho Aruga: Light conditions and photosynthetic productivity of ice algal assemblages in Lake Saroma, Hokkaido [佐藤博雄・山口征矢・渡辺研太郎・有賀祐勝: サロマ湖における ice algae の光合成生産力]	274-278
Takeo Okuda and Yukari Satoh: Conceptacular development in <i>Sargassum filicinum</i> and autumnal <i>S. horneri</i> (Phaeophyceae) [奥田武男・佐藤由香利: シダモク及び秋に成熟するアカモクの生殖器官形成].....	279-283
Sung-Min Boo, Jan Ruess and In Kyu Lee: Life history and taxonomy of <i>Callithamnion callophyllidicola</i> YAMADA (Ceramiaceae, Rhodophyta) [Sung-Min Boo・Jan Ruess・In Kyu Lee: キヌイトグサ (紅藻, イギス科) の生活史と分類].....	284-290
入来義彦・堀口健雄・増尾恵美子: シワランソウモドキ <i>Collinsiella cava</i> (YENDO) PRINTZ (緑藻, ランソウモドキ科) の粘質様物質—構成する中性糖類を中心として— [Yoshihiko Iriki, Takeo Horiguchi and Emiko Masuo: Mucilage from <i>Collinsiella cava</i> (YENDO) PRINTZ (Chlorophyta) with special reference to its sugar components]	291-294
S. F. Friedlander, L. D. Melton and M. T. Brown: Ascorbic acid in the New Zealand seaweeds <i>Porphyra columbina</i> MONT. and <i>Porphyra subutmens</i> J. AG. (Rhodophyceae) [S. F. Friedlander・L. D. Melton・M. T. Brown: ニューゼaland産紅藻 <i>Porphyra columbina</i> MONT. 及び <i>Porphyra subutmens</i> J. AG. のアスコルビン酸].....	295-301
Masahiro Notoya and Yusho Aruga: Tissue culture from the explant of <i>Ecklonia cava</i> KJELLMAN (Laminariales, Phaeophyta) [能登谷正浩・有賀祐勝: カジメの組織培養].....	302-304
市村輝宜・笠井文絵: 鼓藻類の種分化における染色体構成の変動 [Terunobu Ichimura and Fumie Kasai: Genome differentiation in speciation of desmids (Chlorophyta)].....	305-319
日本藻類学会秋季シンポジウム講演要旨 [Abstracts of the Symposium of the Japanese Society of Phycology].....	320-321
新刊紹介 [Book Review]	321-322
学会録事 [Announcement]	323-326
日本学術会議だより [Japan Science Council News]	327-328
第37巻総目次 [Contents of Volume 37]	i-iv

AUTHOR INDEX

- Ajisaka, T. 鯨坂哲朗17
 Amemiya, Y. 雨宮由美子253
 Aruga, Y. 有賀祐勝263, 274, 302
 Bailey, J. C.201
 Boo, S.-M.284
 Brown, M. T.295
 Chiang, Y.-M. 江永棉187
 Cormaci, M.23
 De Wreede, R. E.53
 Fredericq, S.167
 Friedlander, S. F.295
 Furnari, G.23
 Gabrielson, P. W.221
 Gao, K. 高坤山7, 89, 99
 Hommersand, M. H.167
 Honda, M. 本多正樹46
 Horiguchi, T. 堀口健雄291
 Ichimura, T. 市村輝宜305
 Idei, M. 出井雅彦137
 Iriki, Y. 入来義彦291
 Ito, H. 伊藤裕之117
 Kajimura, M. 梶村光男153
 Kapraun, D. F.201
 Kasai, F. 笠井文絵305
 Kawai, H. 川井浩史239
 Kida, Y. 喜田和四郎194, 213
 Kobayasi, H. 小林弘137
 Kociolek, J. P.31
 Lee, I. K.284
 Lin, J.-L. 林俊亮187
 Lindstrom, S. C.221
 Maegawa, M. 前川行幸194, 213
 Mahoney, R. K.31
 Masuda, M. 増田道夫180
 Masuo, E. 増尾恵美子291
 Matsumoto, M. 松本正喜145
 Melton, L. D.295
 Motomura, T. 本村泰三105
 Murase, N. 村瀬昇213
 Nakayama, O. 中山大樹253
 Nelson, W. A.53
 Norris, J. N.167
 Notoya, M. 能登谷正浩263, 302
 Ogishima, T. 荻島隆129
 Okuda, T. 奥田武男46, 279
 Rueness, J.284
 Saga, N. 嵯峨直恒129
 Saito, Y. 斎藤讓208
 Sakanishi, Y. 坂西芳彦129
 Satoh, H. 佐藤博雄274
 Satoh, Y. 佐藤由香利279
 Selivanova, O. N.180
 Sivalingam, P. M.1, 4
 Tatewaki, M. 館脇正和150
 Umezaki, I. 梅崎勇7, 89, 99
 Wakana, I. 若菜勇150
 Wang, X.-Y. 王晓陽57, 150
 Watanabe, K. 渡辺研太郎274
 Wynne, M. J.39
 Yabu, H. 藪熈123, 236
 Yamaguchi, Y. 山口征夫274
 Yamamoto, H. 山本弘敏236
 Yoshida, T. 吉田忠生145, 268, 271

=====

賛助会員 北海道栽培漁業振興公社 060 札幌市中央区北3条西7丁目
北海道第二水産ビル4階
阿寒観光汽船株式会社 085-04 北海道阿寒郡阿寒町字阿寒湖畔
有限会社 シロク商会 260 千葉市春日1-12-9-103
協和醸酵工業株式会社研究開発本部商品開発部センター
100 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル
全国海苔貝類漁業協同組合連合会 108 東京都港区高輪2-16-5
有限会社 浜野顕微鏡 113 東京都文京区本郷5-25-18
株式会社ヤクルト本社研究所 189 東京都国立市谷保1769
弘学出版株式会社 森田悦郎 214 川崎市多摩区南生田6-16-12
田崎真珠株式会社田崎海洋生物研究所 779-23 徳島県海部郡日和佐町外ノ牟井
神協産業株式会社 742-15 山口県熊毛郡田布施町波野962-1
理研食品株式会社 985 宮城県多賀城市宮内2丁目5番60号

=====

好評発売中

自然の中の藻類の「生きている姿」を知るために

藻類の生態

秋山 優・有賀祐勝 共編
坂本 充・横浜康継

A5判 640頁
価12800円

1 水界生態系における藻類の役割—有賀祐勝* 2 水界環境と藻類の生理—藤田善彦* 3 藻類の生活圏—秋山優* 4 海洋植物プランクトンの生産生態—有賀祐勝* 5 湖沼における植物プランクトンの生産と動態—坂本充* 6 自然界における藻類の窒素代謝—和田英太郎* 7 植物プランクトンの異常増殖—飯塚昭二* 8 海藻の分布と環境要因—横浜康継* 9 河川底生藻類の生態—小林弘* 10 汽水域の藻類の生態—大野正夫* 11 土壌藻類の生態—秋山優* 12 海水中の藻類の生態—星合孝男* 13 藻類と水界動物の相互作用—成田哲也* 14 藻のバソジーン—山本鈴子* 15 藻類の細胞外代謝生産物とその生態的役割—大和田紘一* 16 藻類の生活史と生態—中原紘之* 17 藻類群集の構造と多様性—宝月欣二 各章末に掲載の多数の文献は読者にとって貴重な資料となろう。

シートでみる種の同定・分類

淡水藻類写真集

Photomicrographs of the Fresh-water Algae

山岸高旺・秋山優編集

B5判・各100シート・ルーズリーフ式
第1巻・第2巻 価4000円 送料各360円
第3巻・第4巻 価5000円
第5巻・第6巻・第7巻
第8巻・第9巻 第1期10巻完結

自然に親しむ 本…本…本

川崎 勉著—B6判・各価1300円—

世界の珍草奇木

—植物にみる生命の神秘—

世界の珍草奇木余話

—植物と花と人生と—

動物 101 話

動物雑話 101

渡辺弘之著

南の動物誌

B6判・価1300円

山歩きウォッチング

—自然の探索ノート—

柴田 治著 B6・価1300円

● 山歩きアラカルト

—自然の探索ノート—

柴田 治著 B6・価1300円

好評書

日本の湖沼

鈴木静夫著 B6・価1300円

ナマコとウニ

—民謡と酒のさかなの話—

大島廣著 B6・価980円

自然科学この人類の大ロマン

小島和子著 四六・価1600円

内田老鶴圃

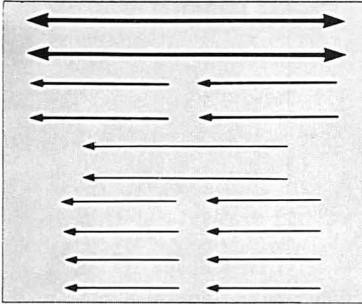
東京・文京区大塚3-34-3/Tel 03-945-6781 FAX 03-945-6782

価格は
消費税抜きです

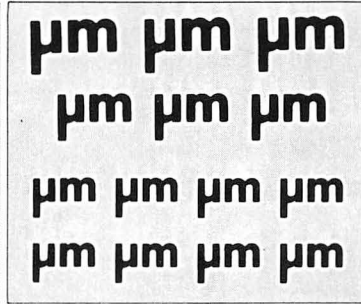
新製品ご案内!!

レタリングシート (ブラック アンド ホワイト)

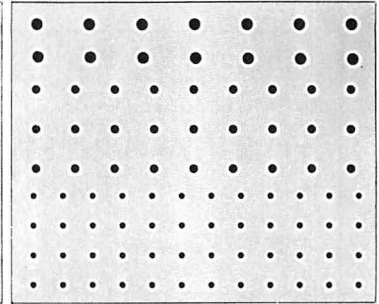
EMI NO.82014



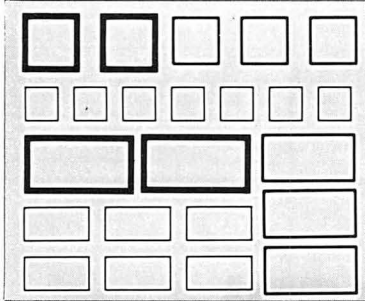
EMI NO.82016



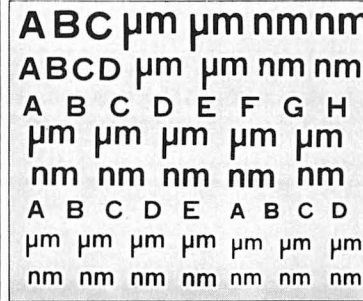
EMI NO.86626



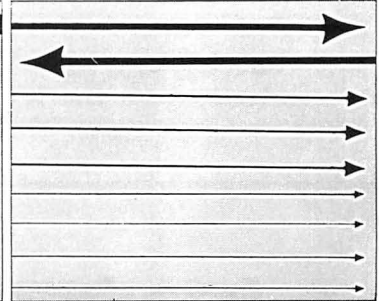
EMI NO.86627



EMI NO.86902

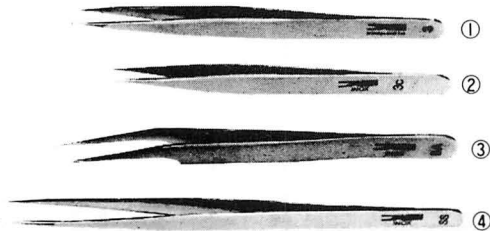


EMI NO.86916



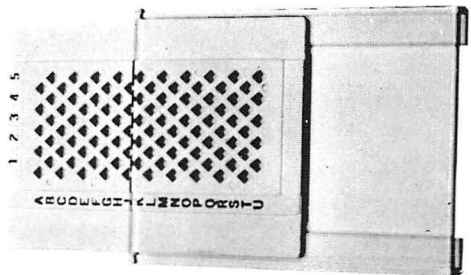
※レタリングシートの総合カタログが出来ました。下記の住所へカタログをご請求下さい。

西独製 精密ピンセット



- ①時計ピンセット
 - ②3Cピンセット
 - ③5型変形ピンセット
 - ④SS型ピンセット
- 各1本：¥2,200

EMグリッドボックス



1個：¥1,800 10個：¥15,000



EM資材直販センター

〒274 千葉県船橋市三山5-6-1 TEL.0474(75)5783
東京営業所：TEL.03(988)9906

海藻を総括的に論じた待望の書!!

海藻資源養殖学

徳田 廣 大野 正夫 小河 久朗 著
(東京大学農学部) (高知大学農学部) (東北大学農学部)

B5判 上製 口絵4頁
本文354頁 付・用語集

定価5,500円 (送350円)

海藻の資源や養殖について初めて総括的に取上げた待望の書。ノリを始めとする個々の海藻養殖の現状と将来展望から、藻場造成、利用法、海外での養殖、新しい海藻の養殖法、新品種形成の現状まで、実に幅広い観点から論じ尽した海藻入門の決定版。研究者・学生・養殖業者の熱い要望に応えて遂に刊行!!

——— 主要目次 ———

I.地球生態系と海藻 II.海藻の生育環境 III.海藻の利用 IV.世界の海藻資源と生産量 V.現在の海藻養殖 VI.藻場造成 VII.海外の海藻養殖の現状 VIII.海藻養殖の将来と展望

〒171 東京都豊島区池袋2-14 池袋西ロスカイビル (株)緑書房
☎販売03-590-4441(直) 振替/東京4-2758・6-80496

情報処理印刷

ワープロ・データベース フロッピー・磁気テープが印刷へ直結

中西印刷株式会社

取締役社長 中西 亮

京都本社 602 京都市上京区下立売通小川東入ル
tel.075-441-3155 fax.075-441-3159
東京連絡所 113 東京都文京区本郷一丁目21-5
tel.東京03-815-7465

学会出版物

下記の出版物をご希望の方に頒布致しますので、学会事務局までお申し込み下さい。(価格は送料を含む)

1. 「藻類」バックナンバー 価格、会員各号 1,750円、非会員各号 3,000円、30巻4号(創立30周年記念増大号、1—30巻索引付)のみ会員 5,000円、非会員 7,000円、欠号：1—2号、4巻1、3号、5巻1—2号、6—9巻全号。
2. 「藻類」索引 1—10巻、価格、会員 1,500円、非会員 2,000円、11—20巻、会員 2,000円、非会員 3,000円、創立30周年記念「藻類」索引、1—30巻、会員 3,000円、非会員 4,000円。
3. 山田幸男先生追悼号 藻類25巻増補. 1977. A 5版, xxviii + 418頁. 山田先生の遺影・経歴・業績一覧・追悼文及び内外の藻類学者より寄稿された論文50編(英文26, 和文24)を掲載, 価格 7,000円。
4. 日米科学セミナー記録 Contributions to the systematics of the benthic marine algae of the North Pacific. I. A. Abbott・黒木宗尚共編. 1972. B 5版, xiv + 280頁, 6図版. 昭和46年8月に札幌で開催された北太平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録で, 20編の研究報告(英文)を掲載. 価格 4,000円。
5. 北海道周辺のコンブ類と最近の増養殖学的研究. 1977. B 5版, 65頁. 昭和49年9月に札幌で行なわれた日本藻類学会主催「コンブに関する講演会」の記録. 4論文と討論の要旨. 価格 1,000円。

Publications of the Society

Inquiries concerning copies of the following publications should be sent to the **Japanese Society of Phycology, c/o Department of Biology, Tokyo Gakuzei University, Nukuikitamachi, Koganei-shi, Tokyo, 184 Japan.**

1. **Back numbers of the Japanese Journal of Phycology** (Vols. 1—28, Bulletin of Japanese Society of Phycology). Price, 2,000 Yen per issue for member, or 3,500 Yen per issue for nonmember; price of Vol. 30, No. 4 (30th Anniversary Issue), with cumulative index (Vols. 1—30), 6,000 Yen for member, or 7,500 Yen for nonmember (incl. postage, surface mail). Lack: Vol. 1, Nos. 1—2; Vol. 4, Nos. 1, 3; Vol. 5, Nos. 1—2; Vol. 6—Vol. 9, Nos. 1—3.
2. **Index of the Bulletin of Japanese Society of Phycology.** Vol. 1 (1953)—Vol. 10 (1962), Price 2,000 Yen for member, or 2,500 Yen for nonmember; Vol. 11 (1963)—Vol. 20 (1972), Price 3,000 Yen for member, or 4,000 Yen for nonmember. Vol. 1 (1953)—Vol. 30 (1982), Price 4,000 Yen for member, or 5,000 Yen for nonmember (incl. postage, surface mail).
3. **A Memorial Issue Honouring the late Professor Yukio Yamada** (Supplement to Volume 25, the Bulletin of Japanese Society of Phycology). 1977. xxviii + 418 pages. This issue includes 50 articles (26 in English, 24 in Japanese with English summary) on phycology, with photographs and list of publications of the late Professor Yukio YAMADA. 8,500 Yen (incl. postage, surface mail).
4. **Contribution to the Systematics of the Benthic Marine Algae of the North Pacific.** Edited by I. A. ABBOTT and M. KUROGI, 1972. xiv + 280 pages, 6 plates. Twenty papers followed by discussions are included, which were presented in the U.S.-Japan Seminar on the North Pacific Benthic Marine Algae, held in Sapporo, Japan, August 13—16, 1971. 5,000 Yen (incl. postage, surface mail).
5. **Recent Studies on the Cultivation of *Laminaria* in Hokkaido** (in Japanese). 1977. 65 pages. Four papers followed by discussion are included, which were presented in a symposium on *Laminaria*, sponsored by the Society, held in Sapporo, September 1977. 1,200 Yen (incl. postage, surface mail).

1989年12月5日 印刷
1989年12月10日 発行

©1989 Japanese Society of Phycology

禁 転 載
不 許 複 製

Printed by Nakanishi Printing Co., Ltd.

編集兼発行

印刷所

発行所

有 賀 祐 勝

〒108 東京都港区港南 4-5-7
東京水産大学藻類学研究室内
Tel. 03-471-1251 内線 315

中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入
Tel. 075-441-3155

日本藻類学会

〒184 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
東京学芸大学生物学教室内
Tel. 0423-25-2111

本誌の出版費の一部は文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」による。

Publication of The Japanese Journal of Phycology has been supported in part by a Grant-in-Aid for Publication of Scientific Research Result from the Ministry of Education, Science and Culture, Japan.

藻類

目次

雨宮由美子・中山大樹： <i>Microcystis</i> 属藍藻の生産する粘質鞘多糖の分離と糖組成	(英文)	253
能登谷正浩・有賀祐勝：紅藻ヒビロウドの生活史	(英文)	263
吉田忠生：ミリン（紅藻，スギノリ目）の学名について	(英文)	268
吉田忠生：新組合せ <i>Spirocladia loochooensis</i> (ヒゲヨレミグサ，新称) について	(英文)	271
佐藤博雄・山口征矢・渡辺研太郎・有賀祐勝：サロマ湖における ice algae の光合成生産力	(英文)	274
奥田武男・佐藤由香利：シダモク及び秋に成熟するアカモクの生殖器巢形成	(英文)	279
Sung-Min Boo・Jan Rueness・In Kyu Lee：キスイトグサ（紅藻，イギス科）の生活史と分類	(英文)	284
入来義彦・堀口健雄・増尾恵美子：シワランソウモドキ <i>Collinsiella cava</i> (YENDO) PRINTZ (緑藻，ランソウモドキ科) の粘質様物質—構成する中性糖類を中心として		291
S. F. Friedlander・L. D. Melton・M. T. Brown：ニュージーランド産紅藻 <i>Porphyra columbina</i> MONT. 及び <i>Porphyra subtumens</i> J. AG. のアスコルビン酸	(英文)	295
◆◆◆		
ノート		
能登谷正浩・有賀祐勝：カジメの組織培養	(英文)	302
◆◆◆		
総説		
市村輝宜・笠井文絵：鼓藻類の種分化における染色体構成の変動		305
◆◆◆		
日本藻類学会秋季シンポジウム講演要旨		320
新刊紹介		321
学会録事		323
第37巻総目次		i-iv